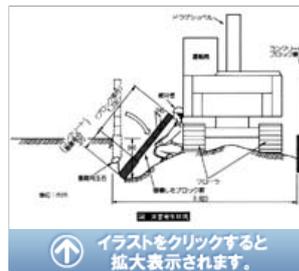


# U字溝設置工事において、 コンクリートブロック塀が 倒壊



## 発生状況

この災害は、住宅団地内のU字溝設置工事において発生したものである。工事内容は、道路を掘削し、既設のU字溝を撤去し、新しいU字溝を設置した後、路面の舗装を行うものである。

災害発生当日は、午前8時ごろから、ドラグ・ショベル2台および建設作業員1名により、アスファルトのはぎ取り作業、路面の掘削作業および既設のU字溝の撤去作業が開始された。

午前9時ごろ、掘削作業を行っていた建設作業員が、作業箇所隣接する住宅のコンクリートブロック塀の宅地側の地面に亀裂が生じているのを発見したため、作業箇所側からブロック塀に対し、4本の控えを設置した。この控えは、パイプサポートおよびジャッキベース付きの単管を利用したものであった。

午前中に、U字溝の撤去作業が終了したため、午後からはドラグ・ショベルを用いて掘削面のならし作業を行うこととなった。ならし作業を行うに当たってブロック塀を支えている控えが作業の邪魔になるため、ドラグ・ショベルの運転手Aが控えを取り外し、ならし作業を開始しようとしたところ、ブロック塀が倒壊し、Aがドラグ・ショベルとブロック塀との間に挟まれ、死亡した。

倒壊したブロック塀は、高さ160cm、幅15m、厚さ145mmで、下方の40cmが基礎コンクリート、その上に1段20cmのコンクリートブロックが6段積み重ねられ、上から2段目と3段目の間に鉄筋が1本横に入っていた。

また、ブロック塀が倒壊した時点において、道路は、住宅の敷地面から85cmまで掘り下げられていた。

なお、本工事においては、発注者および施工業者いずれにおいてもブロック塀についての事前調査は行っておらず、また、倒壊防止措置についても施工計画中に定めていなかった。

## 原因

- [1] ドラグ・ショベルによるならし作業を行うに当たって、控えが邪魔になるため、控えを取り外したこと。
- [2] 施工計画を作成する段階で、ブロック塀についての事前調査を行っておらず、また、有効な倒壊防止対策について検討を行っていなかったこと。

## 対策

- [1] 掘削作業を行う場合には、ブロック塀等の近接する工作物について倒壊のおそれの有無を十分に調査すること。
- [2] 倒壊のおそれがあるものについては、補強、移設等を含め、有効かつ具体的な倒壊防止対策を検討し、施工計画に盛り込むこと。

[3] 倒壊防止対策の内容について関係者に十分周知すること。

業種	上下水道工事業	
事業場規模	-	
機械設備・有害物質の種類 (起因物)	その他の仮設物、建築物、構築物等	
災害の種類(事故の型)	崩壊、倒壊	
建設業のみ	工事の種類	上下水道工事
	災害の種類	コンクリート擁壁、レンガ等の倒壊
被害者数	死亡者数：1人      休業者数：- 不休者数：-      行方不明者数：-	
発生要因(物)		
発生要因(人)		
発生要因(管理)		

NO.452